

ツマベニチョウだより第22号

いろいろな蝶がやって来ました

落語の真打登場までの「前座」よろしく、アサギマダラやコモンマダラなどの渡りをする蝶や迷い蝶が相次いでやって来ました。平成14年5月9日の朝日新聞によりますと「日南市宮浦の遊園施設のサンメッセ日南に、50匹ほどのアサギマダラが連日やって来て観光客を喜ばしている」とあり、私が3年前に寄贈したスイゼンジナを大事に育ててもらっているお陰と感謝しているところです。このスイゼンジナはツマベニチョウの飼育の実際を見学に訪れた西之表市の種子島開発総合センターの尾形善之氏から、平成11年の春に送っていたもので、他にも潮小学校などあちこちに沢山植えてもらっています。

コモンマダラもその潮小学校のスイゼンジナで蜜を吸っているところを採集されました。同じく朝日新聞の記事によりますと、「潮小でコモンマダラが採集された。県内では初の採集。宮崎昆虫同好会副会長の中尾景吉さんが採集した。「潮小は海に近い。気流に乗って台湾辺りからきた迷いチョウではないか」と話している。同時にウスコモンマダラの雌雄2匹も採集した。県内では4例目の採集だという。中尾さんは「潮小はチョウなどが飛来する学校にしようと環境づくりに取り組んでいる。それが功を奏した」と喜んでいる。(別紙参照・写真は中尾景吉氏提供)

平川動物公園を見学しました

5月10日鹿児島市の平川動物公園に石堂飼育係長を訪ねて飼育の実際などを見学しました。既に沢山の親蝶が飛び交い、ギョボクには卵や幼虫がいっぱい付いていました。見学者の便に合わせて年間に2500~3000頭ものツマベニチョウを孵化から羽化まで自在に管理しておられるのには敬服しました。

鶴戸神宮の森でツマベニチョウが沢山育っていました

6月6日に鶴戸神宮に行きましたらツマベニチョウの幼虫がいっぱい付いていました。なかには一本のギョボクに10頭以上も付いていましたので他の木に移しました。成蝶も数頭目撃しましたので今年も豊作(?)と喜ぶことでした。ここは雑草刈りなどの作業が行き届いてギョボクも随分大きくなりました。

潮小の「ギョボクの森」にツマベニチョウが産卵しました

7月10日の朝メス1頭がやって来て産卵した旨を組坂教頭から知らせていただきました。そこで翌朝10時に同校を訪ねましたところ、組坂教頭から「8時30分頃にオス・メス2頭がやって来て交尾したのを目撃した」とのお話がありました。またそれまでに卵も10数个産んだようです。

サンメッセ日南に立派なチョウの飼育舎が出来ました

7月11日に「サンメッセ日南」に行ってみましたところ、ツマベニチョウ用の飼育舎が出来ていました。以前に簡単なネットを張ったのを見ましたが、あそこ辺りのギョボクに産みつけられた卵を保護しようと新しく作られたのだそうです。現在何頭かは育っている模様で羽化するのが楽しみです。(別紙参照)

猪崎鼻にもツマベニチョウが見られるようになりました

7月13日の朝、国定公園猪崎鼻の旅荘「猪崎鼻荘」の西川支配人から「ツマベニチョウが飛んで来ています」と電話がありました。いよいよ対岸の大島から来てくれたかと嬉しく思いました。

猪崎鼻荘の東側の観察舎でツマベニチョウの観察会が行われました

7月23日の宮崎日日新聞によりますと「大堂津平成会が造ったツマベニチョウの飼育・観察舎で19日、初めての観察会が開かれた。飼育・観察舎にはみつを吸うハイビスカスや幼虫の餌となるギョボクなどが植えてあり現在、成虫約10匹、幼虫約80匹を飼育している。観察会には大堂津の大宝山幼稚園の園児ら35人が訪れ、ツマベニチョウを珍しそうに眺めていた。同会は8月から毎週日曜日に飼育・観察舎を一般に開放する」とあり、いよいよ本格的な活動が始まりました。そして「成虫は将来自然に放す考えだ」と載っていますので今後は楽しみです。



コモンマダラ



サンメッセ日南の飼育舎

今年の挿し木の鉢上げをしました

7月10日以降18日までに3回挿し木の鉢上げを行いました。その数は次の通りです。

ギョボク53本、ランタナ60本、ヒメノウゼンカズラ33本 合計146本
まだ相当残っていますので根の付き具合を見て逐次鉢上げをする予定です。

今年は迷い蝶の当り年のようです

7月25日の宮崎日日新聞によりますと「沖縄本島北限のウスキシロチョウが南郷町の県総合農業試験場の亜熱帯作物支場入り口付近で捕獲された」とあります。先のコモンマダラなどと同様に気流に乗ってやって来たのでしょうか。

平成14年7月27日

海老原秀夫